

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：紀北支援学校	学校	校長名：柏木 美紀
------------	----	-----------

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する） 一人一人の障害・発達・生活の実態を正しくとらえるとともに、教育的ニーズを把握し、すべての子供のもつ発達の可能性を最大限に伸ばし、子供を中心とし、将来を見据えた教育を創造する学校。障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、社会の一員としての自立をめざし、「やさしく明るく たくましく」より豊かに生きていこうとする子供。	学校評価の公表方法 職員には、職員会議にて、職員及び保護者の分析を共有する。保護者には、役員会の中で保護者の結果についての分析を公表し、改善策に関する意見等をいただく。学校運営協議会において、改善点等のご意見をいただく。ホームページにおいて公表する。	<table><tr><td rowspan="4">現状・進捗度</td><td>A</td><td>十分に達成している。（80%以上）</td></tr><tr><td>B</td><td>概ね達成している。（60%以上）</td></tr><tr><td>C</td><td>あまり十分でない。（40%以上）</td></tr><tr><td>D</td><td>不十分である。（40%未満）</td></tr></table>	現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）	B	概ね達成している。（60%以上）	C	あまり十分でない。（40%以上）	D	不十分である。（40%未満）
現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）									
	B	概ね達成している。（60%以上）									
	C	あまり十分でない。（40%以上）									
	D	不十分である。（40%未満）									

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月1日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	個に応じたわかりやすい授業づくり	何のために授業を行うのかを押さえた上で目標に対して正確な評価をする。【C】	学習内容表の活用について教務部が発信する。	実際の授業の活用を各学部主事が検証する。	B	・拡大教育課程検討委員会を3回開催し、目標や評価の書き方など個別の指導計画様式の見直しを行い、活用をしている。	・授業研修を展開する中で、学習内容表や単元計画表を使った授業づくりを児童生徒の実態把握、三観点や卒業後につなげる視点、授業構成などを、評価・分析し、授業改善を図る。 ・若手教員の育成を中心に全体の授業力を高めるため、研修の充実を図る。自立活動の具体的な取組とキャリア教育の実践を両軸として教育課程や授業改善を進める。
			自立活動の実態把握を基に実践内容の充実。	昨年度から2年間の研究を行い取組について外部講師から評価を得る。	A	・自立活動に焦点を当てた職員全員の研究を9回実施し授業研修等活発な協議が行えた。また外部講師が配信するビデオを各自が鑑賞して研修を行い、授業力向上に繋がった。	
			目標、評価の正しい視点を持ち授業にいかす。	教務部中心に2ヶ月に1回学部ごとに持ち寄り検証を行う。	B	教務部と自立活動や教育支援部等の連携のもとに、評価の在り方を検証した。	
2	人権を意識した子どもへの関わり	人権チェックリストを基本に学期ごとの評価を行い、具体的項目を全職員に発信し取り組む。【C】	教職員としての意識改革（項目）に特化し小集団で協議をする。	集団ごとの目標や関わりを集約し、スパンで自己評価する。	B	人権の視点のチェックリストの中から各学部で取り組む課題を選出し評価をした。	・人権の視点は、チャックリストを基本としながら今後も継続する。必ず目標達成をするために、各学期に取り組む内容を絞り、検証し更に具体的方策を打ち出しで取り組む。
			外部講師からの研修を受け、到達目標を意識づける。	研修後、講師、管理職、人権教育部長等で研修評価を行い次の課題を洗い出す。	A	研修後の評価を洗い出し、本校の課題について検討を行った。視点を決めて2学期以降の取組にいかした。	
			見本となる子どもへの関わりについて職員会議等で発信する。	職員会議で発信後すぐに自己評価を取り入れ検証する。	A	毎回、職員会議で発信を行い、個々の目標や将来像と具体的方策について発信した。	
3	キャリア教育の充実に向けて実践力を高める。	2年前に作成したキャリアの目標の活用と目的や意図の理解を高め、実践の重要性を知る。【D】	キャリア教育目標と学校生活の繋がりを管理職・担当から発信する。	学校生活の中で反映されている場面の検証を管理職が行う。	B	学期ごとに目標を提示し児童生徒にアンケート調査を実施した。取組み、部長会議、主事会等で学期ごとに検証した。	・継続を遂行するが、更に実践例を取り上げて全体へ発信をする。 ・キャリア教育については、本格的に次年度へつなげ教員への理解を深め授業実践を通して、実践の重要性に迫りたいと考える。
			個々に応じた挨拶の取組を各学部で考え実践	具体的取組を基に3ヶ月ごとの評価の実	A	学校全体で挨拶に取り組む、達成への意欲等の工夫をしなが	

学校関係者評価（2月9日実施）	
・第1回学校運営協議会において、学校経営計画書として、具体的な取組や評価の指標を提示し、本校の重点目標達成に向けた提案を行い書面で周知した。	
・第2回8月学校運営協議会では、今年度の学校目標と課題について提案した。	
人権の視点から多様な子どもたちへのアプローチについて、生きる力を育むための実践力について協議をおこなった。学校としての課題としては、挨拶の重要性について提示を行った。	
社会一般常識の観点や、異校種の学校の現状等も加味し、本校としての進め方について確認した。	
・第3回11月学校運営協議会では、特に個人に対する呼称（授業中にふさわしい呼び方）について協議をした。	
・第4回2月の学校運営協議会では、人権の視点で校内の授業（3授業）を参観した。参観するポイントを提示し、課題となることを提案してもらった。	
基本的な環境設定が徹底されていないことの指摘があった。	
・学校評価の捉え方や評価の仕方について、学校運営協議会委員用に作成し直し、より評価しやすく着眼点を変えて提示をした。その評価を第4回の運営協議会終了後に即時評価と提出を求めた。	
・人権の視点で今年1年協議をしたが、これだけの大規模校の周知徹底の工夫が必要であり、全体への研修を実施しただけでは定着が難しいとの助言を頂いたが、着実に前進していることの評価を頂いた。	
何を行うにもまずは教員から実施するという助言	

			する。	施と検証をする。		ら、検証を行った。		を基にキャリア全体計画を授業改善に活用すること、また人権の視点や個々の配慮に全職員の意識が高まるよう次年度につなげたいと考える。
			校外等の実践の必要性を各学部で話し合い協議する。	各学部で目的や重要性の押さえを行い、各学部で実践を試みる。	B	実践の重要性について、各学部で協議し、主事会発信で系統性表を作成、後期は、計画を立てて実践を行った。		
4								